

中国法定感染症発病概況 2017年9月

The Japan Research Institute (Shanghai) Solution Co., Ltd.
リサーチ・コンサルティング部門

■発病総数は前月比-3.4%だが、例年より非常に多く発生

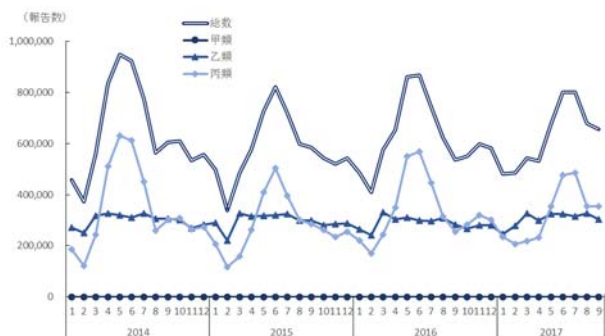
当月発病総数は656,813例であり、前月比-3.4%と減少。一方で、過去平均（過去3年の同月および前後月の9か月平均）比は+13.3%で、過去平均標準偏差（SD）も+2.5であり、発病総数自体は例年に比べ非常に多い。（図表1、図表2、図表3、図表4）

■甲乙類は例年同程度、丙類は例年より非常に多く発生

類型（甲乙丙）別*では、甲乙類は302,727例あり、前月比-7.2%。同月比では過去平均比+2.9%、過去平均SD+0.6で例年同程度であった。また、この内、甲類としてはコレラの2例が報告されている。丙類は354,086例で、前月比+0.1%。同月比では過去平均比+24.1%、過去平均SD+3.2であり例年に比べ非常に多い。（図表1、図表2、図表3、図表4）

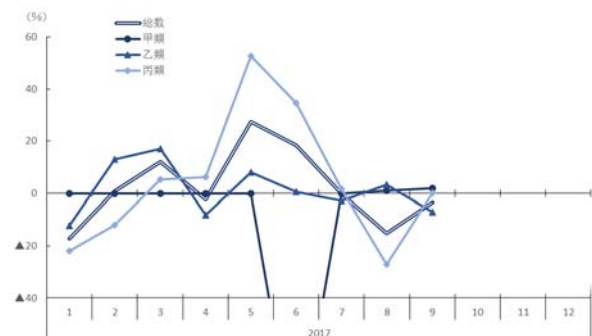
*）中国では、病気のうち39の感染症を甲類2（ペスト、コレラ）、乙類26、丙類11に分類。2013年11月1日に、乙類であった新型インフルエンザ:A(H1N1)pdm09を丙類のインフルエンザに集約し、乙類に鳥インフルエンザA(H7N9)を追加。2016年1月からは、ウイルス性肝炎の内訳にD型肝炎を追記。（本資料のウイルス性肝炎は、A型、B型、C型、D型、E型、および、その他肝炎を合算。）

図表1 発病数



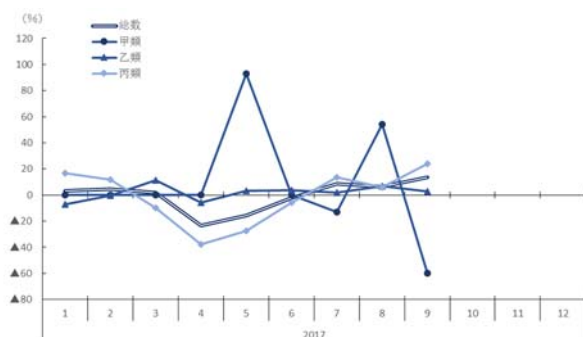
(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発病概況」を基に日本総研作成

図表2 発病数（前月比）



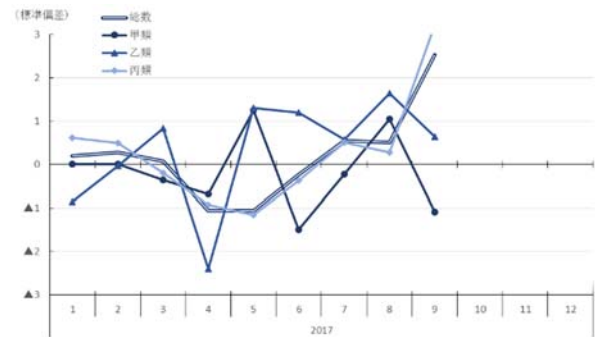
(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発病概況」を基に日本総研作成

図表3 発病数（過去平均比）



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発病概況」を基に日本総研作成
(注) 過去平均は過去3年の同月および前後月の9か月平均

図表4 発病数（過去平均標準偏差）

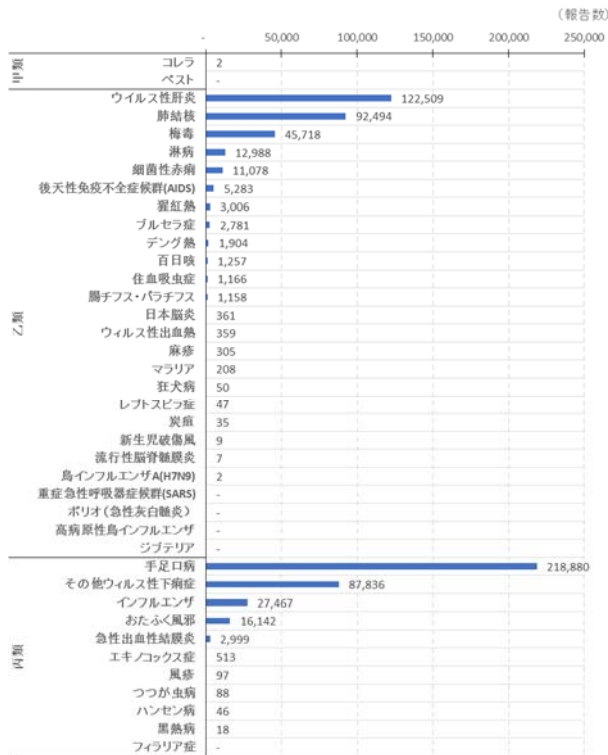


(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発病概況」を基に日本総研作成
(注) 過去平均は過去3年の同月および前後月の9か月平均

■発病数最多は手足口病であり、例年に比べても非常に多い

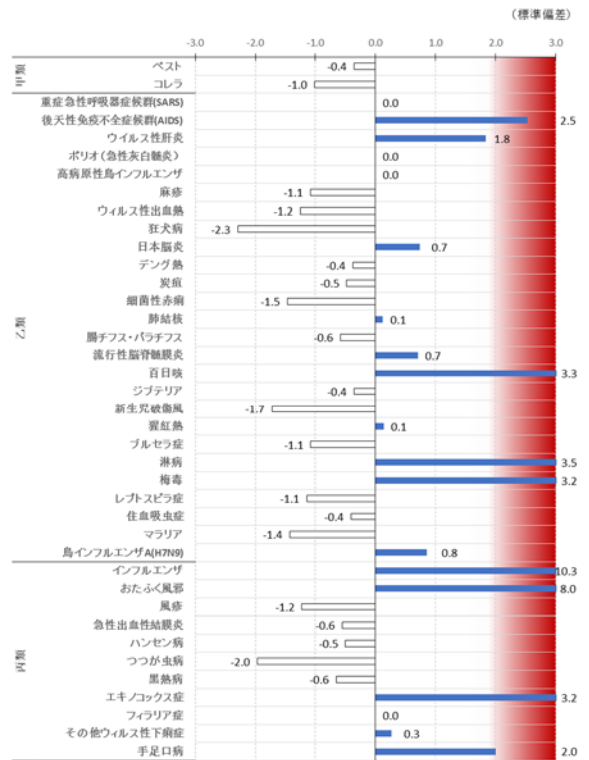
感染症別では、手足口病が218,880例と最も多く、前月比+26.3%。過去平均SDは+2.6であり、例年に比べ非常に多く発生した。(図表5、図表6)

図表5 発病数
〈当月発病数順〉



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発生状況」を基に日本総研作成

図表6 発病数(過去平均標準偏差)
〈法定感染症統計記載順〉



(資料) 中華人民共和国国家衛生計画生育委員会「全国法定伝染病発生状況」を基に日本総研作成
(注) 過去平均は過去3年の同月および前後月の9か月平均

■例年に比べ非常に多く発生した感染症は8つ

例年に比べ非常に多く発生(過去平均SDが+2.0以上)した感染症は、以下の8つ。(図表6)

- 1) インフルエンザ SD: +10.3
- 2) おたふく風邪 SD: +8.0
- 3) 淋病 SD: +3.5
- 4) 百日咳 SD: +3.3
- 5) エキノкокクス病 SD: +3.2
- 6) 梅毒 SD: +3.2
- 7) 後天性免疫不全症候群(AIDS) SD: +2.5
- 8) 手足口病 SD: +2.0

■前月は例年に比べ非常に多く発生したが、当月は該当しない感染症は4つ

前月は例年比で非常に多く発生していたが、当月は過去平均SDが+2.0未満の感染症は、①ウイルス性肝炎、②日本脳炎、③鳥インフルエンザA(H7N9)、④その他ウイルス性下痢症の4つ。

■インフルエンザは3カ月連続、おたふく風邪は例年に比べ非常に多い

インフルエンザは27,467例で前月比-34.0%。しかし、過去平均SDは+10.3であり、3カ月連続して例年に比べ非常に多い。例年の傾向からみても、今年はこの直近3カ月は突出して多い状態が続いている。おたふく風邪は16,142例で前月比-8.8%だが、過去平均SDは+8.0であり例年より非常に多い。(図表7、図表8)

図表7 発病数 (インフルエンザ)



図表8 発病数 (おたふく風邪)



■淋病は7カ月連続、梅毒は5カ月連続して例年より非常に多い

淋病は12,988例で前月比-5.9%。過去平均SDは+3.5であり2017年3月から7カ月間、例年より非常に多く発生し続けている。梅毒は45,718例で、前月比-4.6%だが、過去平均SDは+3.2であり2017年5月から5カ月間、例年より非常に多く発生し続けている。(図表9、図表10)

図表9 発病数 (淋病)



図表10 発病数 (梅毒)



本資料は情報提供を目的に作成されたものであり、取引の誘引を意図したものではない。また、2017年10月12日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものであるが、内容に誤りがないことを保証するものではなく、情報の正確性・完全性・網羅性・商用性については、一切の保証をするものではない。